



人間以外に汗をかき動物はいるの

汗は体温を下げるためにかく

汗は、夏暑いとき、あるいは運動した後などに出来ますね。汗は、蒸発していくとき、皮膚から熱をうばっていきます。病気で高熱が出たとき、薬や体を温めるなどで、汗をかかせて熱を下げることも、よく行われます。

汗は、体温調節のためのしくみなのです。でも、汗をかきのは、汗で体温をいつも一定に調節している、ウマ、人間、ネコなどのほ乳動物だけなのです。ほかの動物は、息を速くして体を冷やしたり、すずしい所や穴に入ったりします。

人間のように汗をかき動物は少ない

ほ乳動物の中でも、人間のように、全身に汗をかきしくみをもっているものは、そうはいません。ウマは、人間のように汗をかきます。ネコは、足の裏に汗をかき、地面ににおいを残します。

カバも汗っかきで、水から出て、陸に上がってくると、全身汗びっしょりです。しかも、その汗が空気にふれると、真っ赤になります。汗にふくまれた色素が、空気中の酸素で赤く変わります。カバの皮膚は、かわくと、ぼろぼろはがれやすくなるため、大汗をかいて、皮膚が乾燥しないようになっているのです。体温調節の汗とは、少しちがいます。

汗が出ない動物は、体温調節をくふうしている

汗を出すしくみがないイヌは、よだれでぬれた舌を出しながら、ハッハッと息を激しくして、よだれの蒸発で、体温を下げます。ゾウは、大きな耳をばたばた動かして、耳や耳の下に集まった血管に風を送って、体温を下げます。ウサギも、走りながら耳を立て、長い耳のうちがわに集まった血管を、風で冷やして体温を下げています。(監修・今泉 忠明)

